

JAべっぷ日出の自己改革の取り組み

令和元年7月時点作成

農業者の所得増大・農業生産の拡大

- ① 重要品目(カボチャ)の作付面積拡大
- ② 直販所の売上拡大

地域の活性化

- ③ 農業応援隊(職員)の実践

「①重要品目（カボチャ）の作付面積拡大」

取組の概要

- ・ブランド化の推進
- ・栽培面積の拡大
- ・加工商品の開発

*** 消費者から選んでもらえる農産物となるために……**

具体的な取組の内容

・ブランド化の推進

- ▶ 種苗メーカー・市場との協議による重点品種選定……特濃こぶき5.6
- ▶ 栽培方法の統一と試験栽培（平成31年度まで）……1株1玉生産・完熟収穫等
- ▶ 行政との連携……苗の無償提供・各種分析・加工品試食会等

・栽培面積の拡大（7.5ha→9.0ha）

- ▶ 部会員への働きかけ（部会員28名スタート）
- ▶ 遊休農地の活用対策
- ▶ 水田転作作物……試験栽培（30年度）
- ▶ 栽培研修・出荷目合わせ・視察開催

・加工商品の開発

- ▶ 日出総合高校へのプロデュース要請
ネーミング・宣伝広告・加工品等
- ▶ JA加工場での試作品製造
- ▶ 管内菓子店への無償提供



取組の成果

＜部会員数の推移＞

	28年度	30年度	増
夏作カボチャ	29名	32名	3名
冬至カボチャ	15名	16名	1名
合計	44名	48名	4名

＜作付面積の推移＞

	28年度	30年度	増
夏作カボチャ	6.42ha	6.70ha	0.28ha
冬至カボチャ	2.20ha	2.50ha	0.30ha
合計	8.62ha	9.20ha	0.58ha

組合員の声・期待

- ・ブランド化を進めているが市場評価で今一步インパクトが無い。
- ・プレミアムかぼちゃを作っても販売単価には限界がある。
- ・糖度重視のための栽培では収量が上がりず結果として所得の向上は望めない。
- ・青果以外の外品の有効活用で手取りアップを図ってほしい。
- ・新規に取り組むには良い農産物と思う。
- ・助成措置を継続してもらいたい。
- ・美味しいかぼちゃを消費者に届けるよう頑張ります。

「②直販所の売上拡大」

取組の概要

- ・店舗のリニューアル
- ・販売商品の充実・拡大
- ・イベントの開催

*** 来店者の満足度向上のために……**

具体的な取組の内容

- ・店舗のリニューアル
 - ▶ 店舗内照明（LED）・陳列台の更新・買い物導線の見直し（配置替え）……お客様目線
 - ▶ 冷凍・冷蔵施設の増設……商品の充実と安全性確保
 - ▶ 店舗職員教育……接客・応対・商品管理等
- ・販売商品の充実
 - ▶ 来店者ニーズの把握と品揃え……アンケート実施・高原野菜仕入
 - ▶ 集荷体制の見直し……会員の高齢化・負担軽減
 - ▶ 「店長イチ押し商品」アピール
 - ▶ 季節商品の充実……JAならではの商品構成
- ・イベントの開催
 - ▶ 週次・月次・スポット開催の充実
ニモカ会員優待・トウモロコシ祭
 - ▶ 創業祭……来店者への感謝
農産物・協力業者商品全品20%オフ



取組の成果

<売上高の推移>

(単位:千円)

	28年度	30年度	増加率
第1四半期	120,733	119,351	98.9%
第2四半期	124,304	125,968	101.3%
第3四半期	128,970	134,454	104.3%
第4四半期	107,680	114,567	106.4%
合計	481,687	494,340	102.6%

<来店者数の推移>

(単位:名)

	28年度	30年度	増加率
第1四半期	106,578	106,970	100.4%
第2四半期	106,325	109,960	103.4%
第3四半期	108,580	113,712	104.7%
第4四半期	94,611	100,861	106.6%
合計	416,094	431,503	103.7%

お客様や組合員の声・期

- ・店舗が明るくなり通路も広く買い物がしやすくなった。
- ・他産地の農産物が買えて便利
- ・午後（特に夕方）から農産物・加工品を充実してもらいたい。
- ・出荷者名が分かりにくくなった（以前のコンテナ陳列が良かった）。
- ・時期による仕入農産物の割合が多くなるのはいかなものか。
- ・別府石垣店の来店数が多いのでできるだけたくさん出荷したい。
- ・買取販売してもらいたい（売残りの引取りが面倒くさい）。
- ・もっとPRして来店者を増やし売れる店舗にってもらいたい。

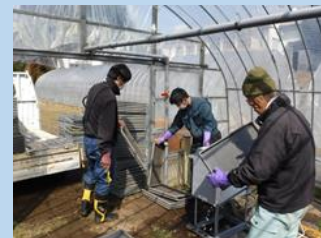
「③農業応援隊（職員）の実践」

取組の概要

- 職員連続職場離脱を活用
- 管内の農事組合法人での農作業
- * 農家・組合員から必要とされる J A となるために……**

具体的な取組の内容

- ・職員連続職場離脱を活用
 - ▶ 5日間の職場離脱の内2日間を農作業従事
 - ▶ 非農家職員が増えるなか農業に対する認識を深める
 - ▶ 組合員とのコミュニケーション強化
- ・管内の農事組合法人での農作業
 - ▶ 法人からの作業要請に基づき職員を派遣
 - ▶ 労働力の提供……苗の植付・収穫・草刈り・水路掃除等の軽作業
 - ▶ 感謝される貢献活動
- ・今後の活動予定
 - ▶ 全職員1年間2日以上のお営農支援
 - ▶ 農事組合法人以外からの要請対応
 - ▶ 高齢従事者への支援促進



取組の成果

<出役の推移>

	28年度	30年度	増員
(株)東山パレット	96	71	-25
軒の井生産組合	36	43	7
FA真那井	0	51	51
内竈堂面棚田	4	20	16
JA農園	0	50	50
その他	10	43	33
合計	146	278	132

組合員の声・期待

- ・会員の作業軽減が図れ大変喜んでます。
- ・J A 職員と世代を超えてコミュニケーションをとる良い機会となりました。
- ・農家の苦勞を知ってもらい嬉しかったです。
- ・J A との距離が身近に感じられました。
- ・ありがとうございました。
- ・病気やけがの際、手伝ってほしい。
- ・農業機械の操作ができる職員を増やしてほしい。
- ・今後 J A が農地や施設を借上げ農業を継続してほしい。
- ・法人以外の個人も対応してほしい。
- ・もっと農業のことを知りたい。